

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成27年度第1回情報教育研究委員会議事記録

- I. 日 時：平成27年7月17日(金) 18:00～20:00
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 参加者：屋代担当理事、斎藤委員長、玉田委員、岡田委員、笈委員、大原アドバイザー、
児島アドバイザー (Skype)
事務局：井端事務局長、野本 (記)

IV. 検討事項

1. 情報教育の改善充実に関する事業の進め方等について

担当理事、委員の紹介が行われた後、本年度の取組みが確認された。

- ・ 親委員会では、有識者、学識経験者によるフォーラムを1月に開催することになっている。
- ・ 情報リテラシ・倫理分科会では、情報リテラシーのガイドラインをデータや情報を活用して課題を発見し、目標を設定して課題解決に取り組み、新しい価値の創造に向けて考えることができる観点で見直し、ICT戦略大会で意見を伺うことにしている。
- ・ 情報専門教育分科会では、課題発見・問題解決型のPBL授業を充実し、初年次教育から主体性を引き出し・伸ばす教育プログラムを推奨するため、産業界と連携した分野横断型のオープン・イノベーションによる学修の仕組みを研究することになっている。
- ・ 分野別情報教育分科会では、分野固有の学修に必要な情報活用能力を教員連携の中で組織的に展開するためのモデルを研修することになっている。
- ・ 高大接続分科会では、情報を担当する高校教諭の指導能力及び他教科の教諭の情報活用能力を支援する仕組みを研究するため、参考となる教材を作成し、Webサイトに限定掲載して支援の可能性を見極めることにしている。また、教員養成課程の全教科で情報活用能力の教育が展開されるよう、どのように情報活用教育を授業に組み込みことが効果的か事例を含め対応策を整理することになっている。

2. フォーラムの開催について

シナリオとして、IoT時代、ビッグデータ活用、イノベーションの可能性、データ・情報活用力の育成、安全性の担保・課題などが提示された。情報提供者として、経済産業省、東京大学、情報学研究所、企業など有識者の候補が提案された。

- ・ 未来社会をつくる上で重要な話題や可能性を提示する情報提供を行う必要があり、ICTを学ぶ手続きを奮い起させることが求められる。
- ・ テーマは、新たな価値を創出するビッグデータの活用として一人ひとりがそれぞれの立場で価値の創出に関与することが求められる。
- ・ データがつながっていること、どのように活用されているのか、イノベーションの可能性はあるのか、例えば、人工知能、ロボット、CPS(サイバーフィジカルシステム)、IoTなどが考えられる。
- ・ リスクとして、例えば車が乗っ取られることが考えられ、事故がおこる以前に訴訟になることも考えられる。また、企業内では、センサーについて人体に付けること、ヘルスケア、

農業、風力発電、電気、モータなどの研究が進んでいるのではないかと。海外では工場をつなぐなどのインダストリー4.0プロジェクトも進んでいる。

- ・ ソフトウェアやハードウェアなどを分解・解析するリバースエンジニアリングの情報版、ソフトはクラウドにあり現場にはメカだけの状態、自動車、電機なども考えられる。
- ・ 世界の動き・潮流、標準化、国としての取組みなどの話ではどうか。
- ・ 授業で利用するための枠に書き込みができるワークシートを作成してはどうか。授業で使う視点を提示してはどうか。
- ・ 時間等は、15分程度で、5～6本程度の設定ではどうか。授業の活用としては、10～15分で何本かあれば良いのではないかと。
- ・ 高校を対象に加えるとしたらSSHレベルか難しくないか、YouTubeが学校で使えない場合のためメディアの用意を考えるのか。
- ・ 企業の場合、工場の説明など見せることでイメージさせることが必要ではないかと。
- ・ 1回目は広く浅く、2回目以降で深めていく進め方も考えられないかと。
- ・ フォーラムの形として集まって意見交換を活かすことを考え、各コマは完結させ、パネルディスカッションの形で意見交換を行う。
- ・ 学問・研究の世界で分野融合、ビッグデータによる総合の学修が必要なようになってくるのではないかと。
- ・ 日程は1月26～29日で講師の予定で検討を考えている。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は、9月14日の17時から開催することにした。